

「スマートフォン・携帯電話等の利用に関する意識調査」の結果について

令和元年 12 月

1. 調査の目的

児童生徒のスマートフォン・携帯電話等（以下、スマホ等と略する）の利用に係るトラブルや健全な生活習慣、価値感への悪影響を防ぐために、利用の実態を調査し、今後の安全対策及び情報モラル教育やトラブル回避への啓発等の参考資料に活用する。

2. 調査対象

- ①市内小学校 3～6 年生の児童とその保護者
- ②市内中学校 1～3 年生の生徒とその保護者

3. 調査期間

6 月 21 日（金）～7 月 25 日（木）

4. 調査方法

無記名によるアンケート（家庭に持ち帰っての回答）

5. 調査回収結果

①小学生（3～6 年生）	854 名 / 1,142 名	回答率	74.7%	（前回 4～6 年生 95%）
②中学生	722 名 / 872 名	回答率	82.7%	（前回 94%）
③保護者（小学生）	920 名 / 1,142 名	回答率	80.5%	
（中学生）	587 名 / 872 名	回答率	67.3%	

1. 調査結果及び考察（児童、生徒） * 児童=小学生、生徒=中学生

(1) スマートフォン（携帯電話を含む以下、スマホとする）の所持率（前回調査との比較）

（回答数：児童 854 件中、所持 239 件、生徒 722 件中、所持 454 件）

スマホ等の所持については、回答のあった児童の約 3 割、生徒では 6 割強が専用で所持している。前回調査と比較し、児童の所持率が若干減少し、生徒は微増となっている。

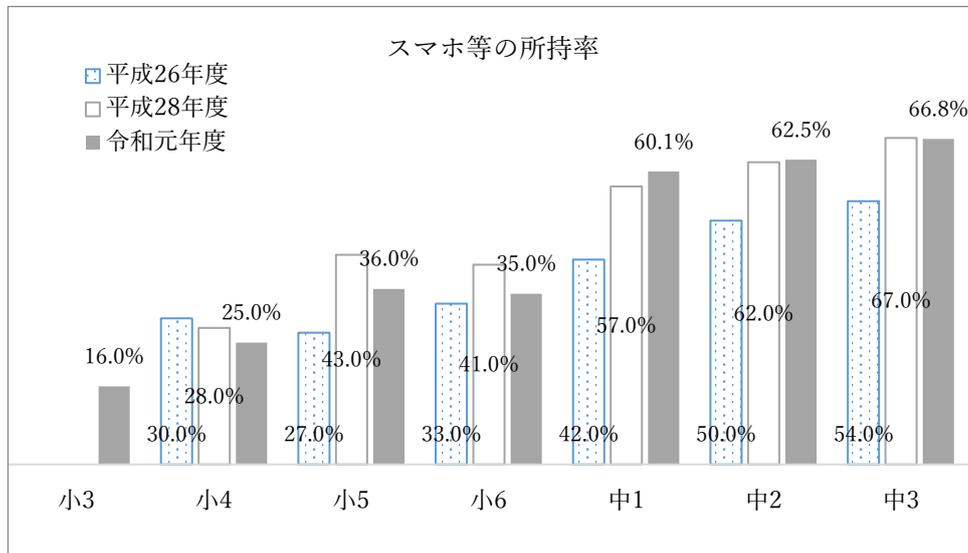


図1 スマートフォンの所持率（前回調査との比較）

（前回調査の平成 28 年度当時で小 4 ～小 6 だった児童が現在は中学生 1 ～ 3 年生となり、この 3 年間で所持率は 20% 増となっている。）

(2) スマホ等を持っていない児童生徒を対象として「持ちたい」の意向

（持っていないの回答数：児童 607 件、生徒 261 件）

前回と比較して「持ちたい」との回答は、増加している。スマホ等の急速な普及により、家族や友だちなど、自分の周りで普通に使用している環境があり、実際に見たり、聞いたり、使ってみたりする中で、楽しいもの、便利なものとしてより興味が高まり、自分専用のスマホの希望が強い。

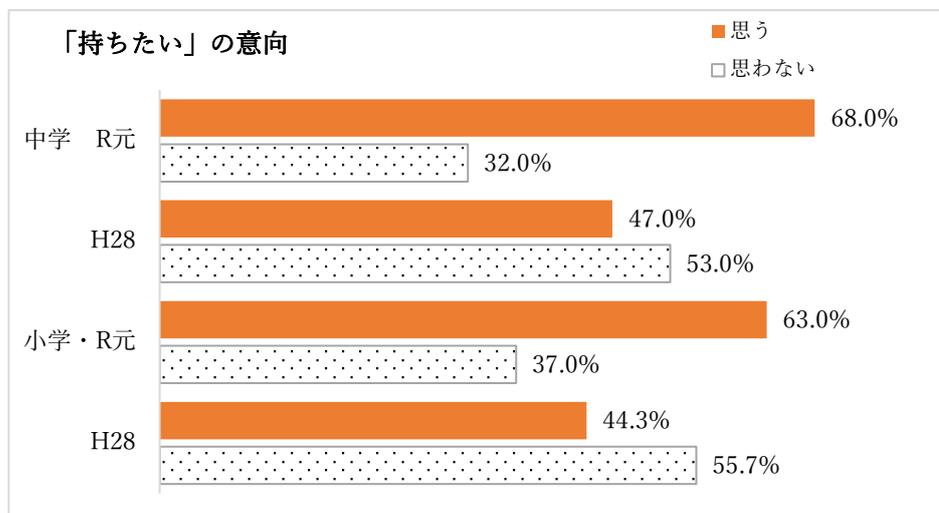


図2 スマホを持ちたいかの意向比較 注：前回調査の「今は思わない」「思わない」を「思わない」に合算して比較

(3) スマホを所持した時期

(回答数：児童 239 件、生徒 464 件)

児童が所持した時期では、小学3、4年生が多く、次いで小学1年生となっている。特に、所持が上昇する時期は、小学校卒業を迎える6年生、中学校へ進級する中学1年生となっている。この時期にキッズ携帯からスマートフォンへと機種変更をされることも予想される。

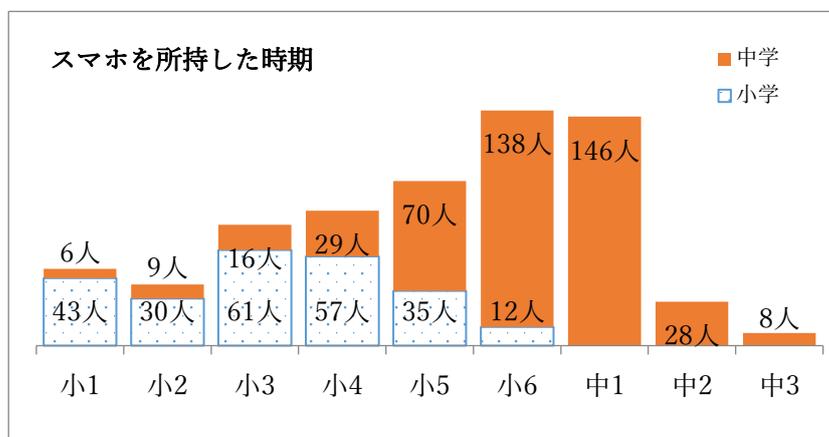


図3 スマホを所持した時期

(4) 平日、休みの日のスマホ等の利用状況 (複数回答)

3年前の調査時よりスマホ等の機能が充実し、以前の調査になかった機能が増え、利用の範囲も広がっている。複数回答となっており、所持する239人が平均して5項目以上を利用していることがわかる。

児童の利用傾向としては、電話やメール(連絡用)が多く、高学年になるにつれ、電話(連絡用)の次に動画・音楽、ゲーム、SNSなどの娯乐的なものが多い。2時間以上の利用の中には、6時間を超える利用もある。調べものや勉強サイト、掲示板、写真等の書き込み、品物の売買なども同程度利用がある。休みの日の利用では、5時間以上の利用もある。

* 児童の回答件数 (平日：1,353件 休日：1,214件)

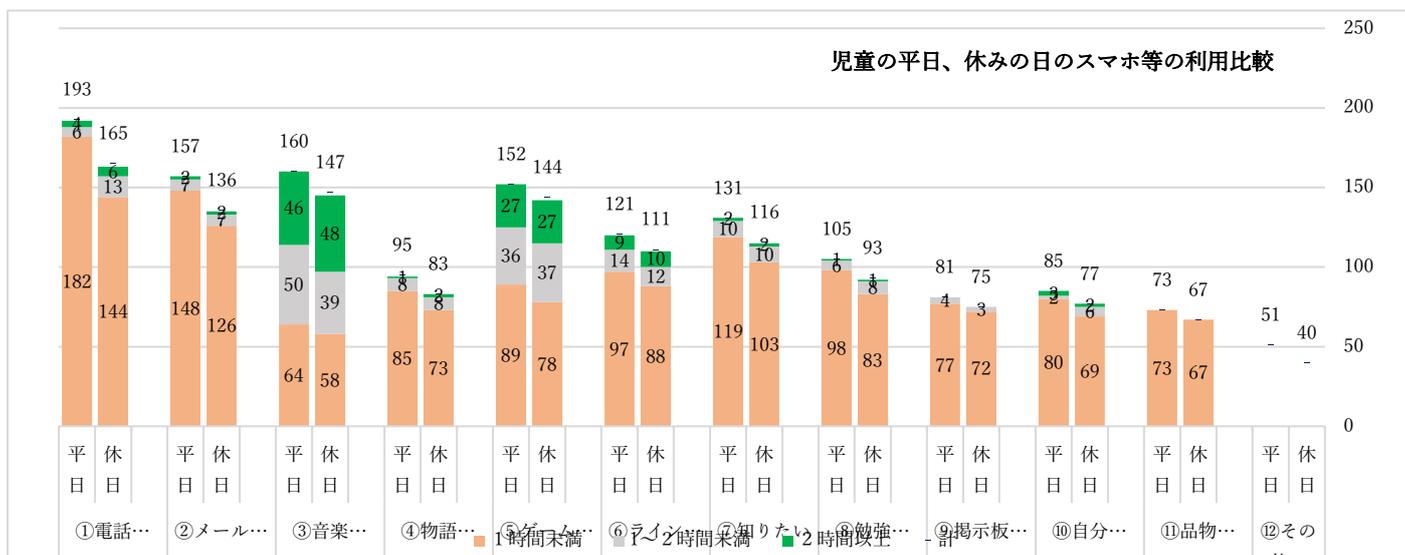


図4-1 児童の平日、休みの日のスマホ等の利用比較

①電話②メール③音楽・動画の視聴④物語・マンガ等⑤ゲーム⑥ライン(SNS)⑦知りたい情報⑧勉強サイト⑨掲示板⑩自分の写真・動画の書き込み⑪品物の売買⑫その他

生徒では、音楽・動画、ラインなどのSNS、ゲームなどの娯楽的なものが上位、調査（情報、調べものなど）の利用も多くなっている。掲示板やブログ、売買などの同程度に利用され、スマホ等のいろいろ機能を使いこなしている。利用件数では休みの日が減少しているが、2時間を超える利用が増え、5時間超もある。

○その他使用しているアプリでは、「ユーチューブ」、「インスタグラム」、「ティックトック」、「ツイッター」、写真用アプリなどの回答がある。

* 生徒の回答件数 （平日：3,392件 休日：3,221件）

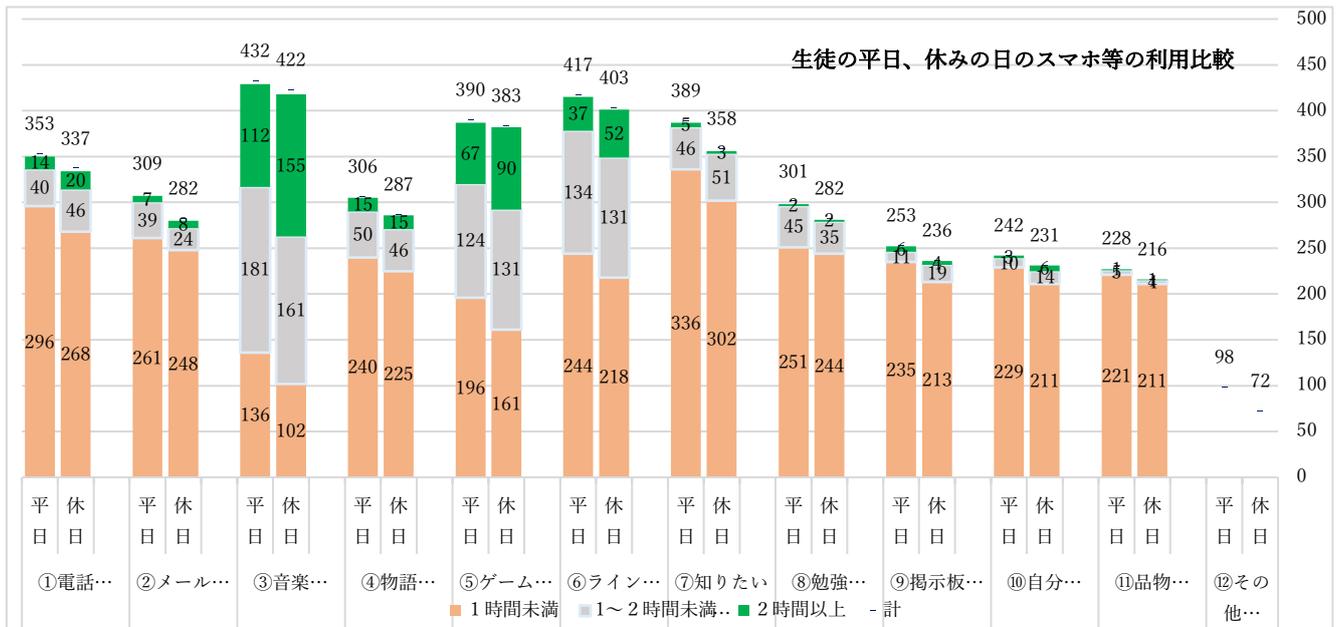


図4-2 生徒の平日、休みの日のスマホ等の利用比較

①電話②メール③音楽・動画の視聴④物語・マンガ等⑤ゲーム⑥ライン（SNS）⑦知りたい情報⑧勉強サイト⑨掲示板⑩自分の写真・動画の書き込み⑪品物の売買⑫その他

（5）普段と学校の休みの日（平均）のスマホ等の利用目的別の比較

スマホ等の利用を目的別に①連絡用、②娯楽用、③SNS、④勉強等の情報収集、⑤売買に区分して平日と休みの日を比較した。

平日は、児童生徒ともに1時間未満の利用が多いが、休みになると音楽・動画などの娯楽的なものやSNSサイトの利用が2時間以上の枠で増えている。特に、生徒の音楽や動画などの娯楽的なものでは、3時間未満が多く、6時間を超える利用もある。

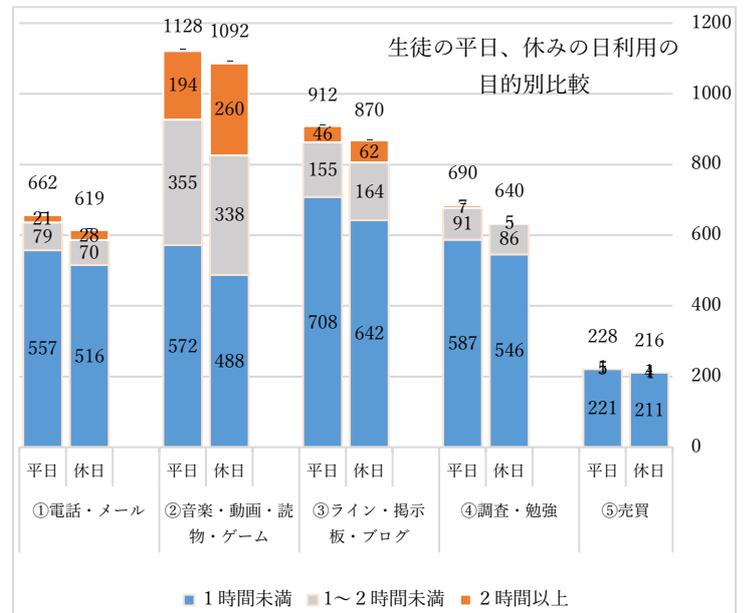
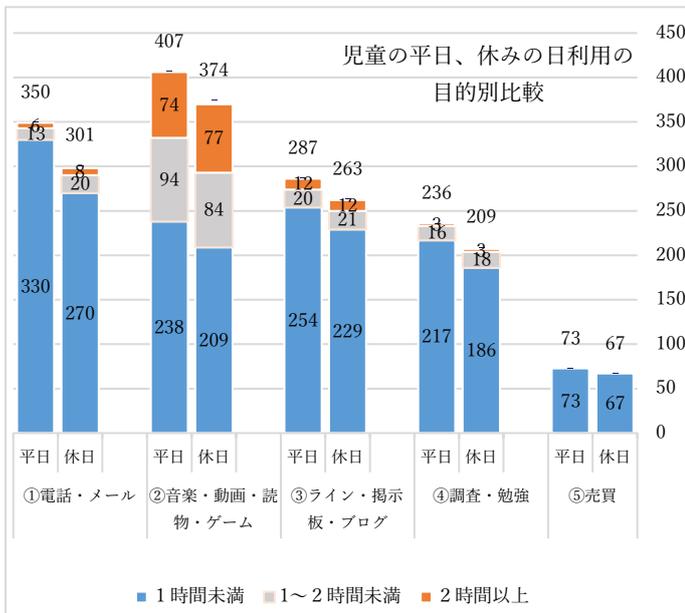


図 5-1 平日、休みの日利用の目的別比較

①電話・メール（連絡） ②音楽・動画の視聴、物語・マンガ・雑誌などの読書、ゲーム（娯楽） ③ラインなどの SNS サイト、掲示板の閲覧や書き込み、自分の写真や動画、自分の行動、出来事などの投稿（SNS） ④知りたい情報の検索、勉強用のサイト ⑤ネットでの物品売買

(6) 児童生徒の利用時間帯（平日、休みの日）

（複数回答 児童平日：372 件、休日 493 件）

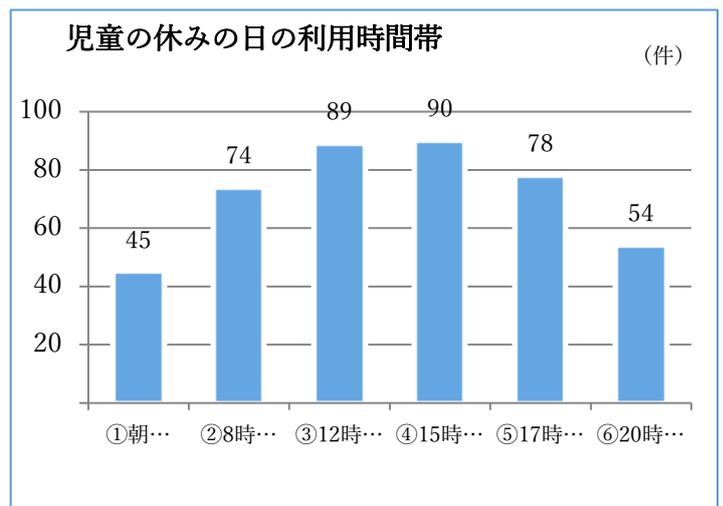
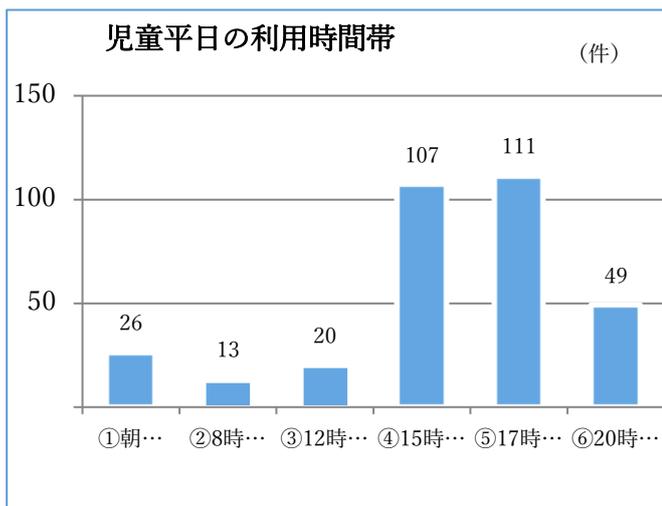


図 6-1 児童の平日、休みの日の利用時間帯

注：①朝起きてすぐ ②8～12時 ③12～15時 ④15～17時 ⑤17～20時 ⑥20時以降

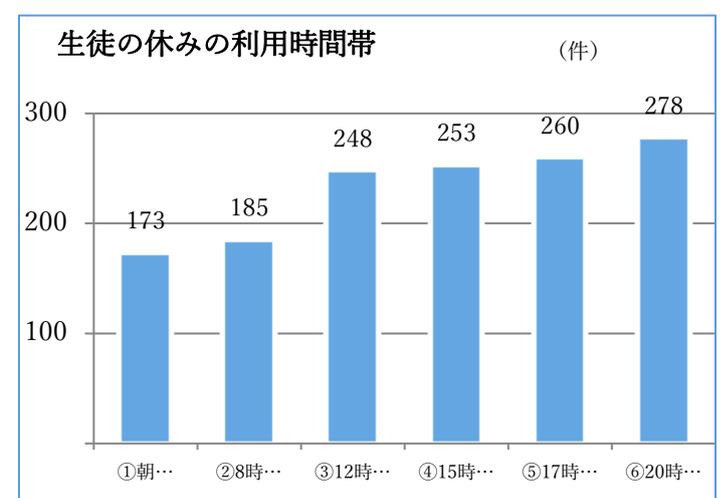
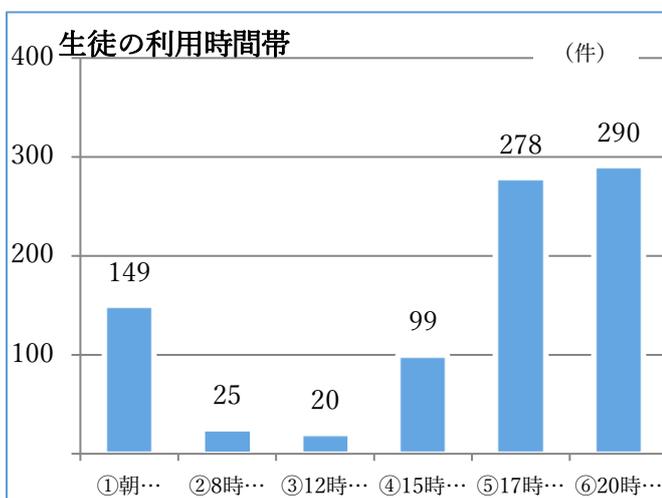


図 6-2 生徒の平日、休みの日の利用時間帯

注：①朝起きてすぐ ②8～12時 ③12～15時 ④15～17時 ⑤17～20時 ⑥20時以降

児童の平日利用は、15時から20時までが全体の6割、20時以降の利用は高学年が多く、全体の2割を占める。休みの日になると、朝起きてから徐々に利用が多くなり、12時から17時までが全体の4割、20時以降の利用は平日とほぼ変わらない。

生徒の平日利用では、朝起きてからの時間帯で全体の2割近くが利用し、学校から帰宅後の17時から20時以降までの時間帯で全体の6割が利用している。休みの日については、朝から夜まで利用が伸びている。平日の8～12時の時間帯に3～4%の利用があるが、内容は不明。

(7) ふだん、スマホ等の使用で気をつけている事

(回答数：児童 166/239 件、生徒 368/454 件)

「家庭でのルールや使用時間を守る」、「個人情報を書かない」、「知らない人とラインやメールをしない」、「知らないサイトに入らない」、「課金しない」、「目の使い過ぎに注意する」などの回答があり、子ども自身も保護者との約束や注意事項を守ることを意識しながら使用している。

(8) スマホを使う時に家族と決めたルールの有無

(回答数 児童 142/239 件、生徒 305/454 件)

家庭でのルールについては、児童で約6割、生徒で約7割が「ある」と回答している。主なものは、「利用時間」、「利用場所」、「知らない人との関わらない」などが多く、中には、「勉強ややるべきことを終えてから」といった優先順位や利用マナーも決めている。

(9) スマホ等でのトラブルの有無とその相談者 (複数回答)

(トラブル有の回答数 児童 18/240 件、生徒 164/514 件)

前回と比較して児童のトラブルに巻き込まれた件数が少なくなっているが、「チェーンメール※」が多い。児童では、「しつこいメール」が2件、「メール等で悪口や嫌なことを書かれた」1件で、「トラブルに遭遇していない」と回答したのは、7割。「その他」として「グループラインで嫌な気分になった」や「友人の悪口が送られてきた」等があった。

生徒では、「チェーンメール」が最も多く、「しつこい連絡」「悪口を言われた」は前回より若干減少はしているが、なくなっていない。「トラブルに遭遇していない」と回答したのは、全体の約6割。「その他」では、「知らない人からのメール」、「ラインのトラブルに巻き込まれた」等があった。

トラブルに遭って相談した相手では、児童は「友達」、「親」、「親以外の家族」、生徒では、「親」と「友達」の順となっている。「インターネットのトラブル相談電話」の利用は、児童、生徒ともに2%が回答。「誰にも相談できない」では、児童では該当がなく、生徒の1%が該当している。

また、トラブルに遭っていないが、トラブルに巻き込まれた場合の相談者では、児童、生徒ともに、「親」、「友達」、「親以外の家族」の順となっており、トラブルに遭った時にすぐに相談できる親や家族を頼りにすることがわかる。

※チェーンメールとは、受信者に対して他者への転送を促す手紙や巧妙な文面を用いて受信者に不特定多数への転送を促す手紙。

○児童のトラブル内容と件数の比較 (回答数 240件：トラブル有 18件、トラブル無 173件、未記入 49件) (複数回答)

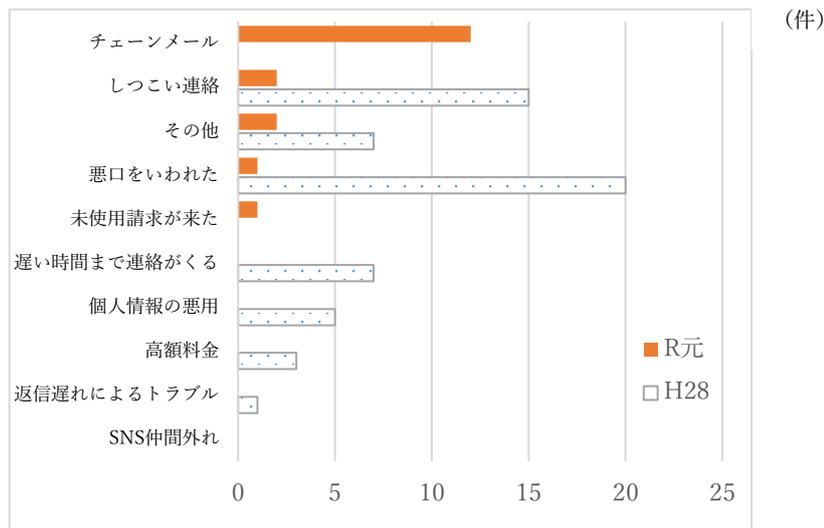


図 7-1 児童のトラブル内容と件数の比較

○生徒のトラブル内容と件数の比較 (回答数 514件：トラブル有 178件、トラブル無 301件、未記入 35件) (複数回答)

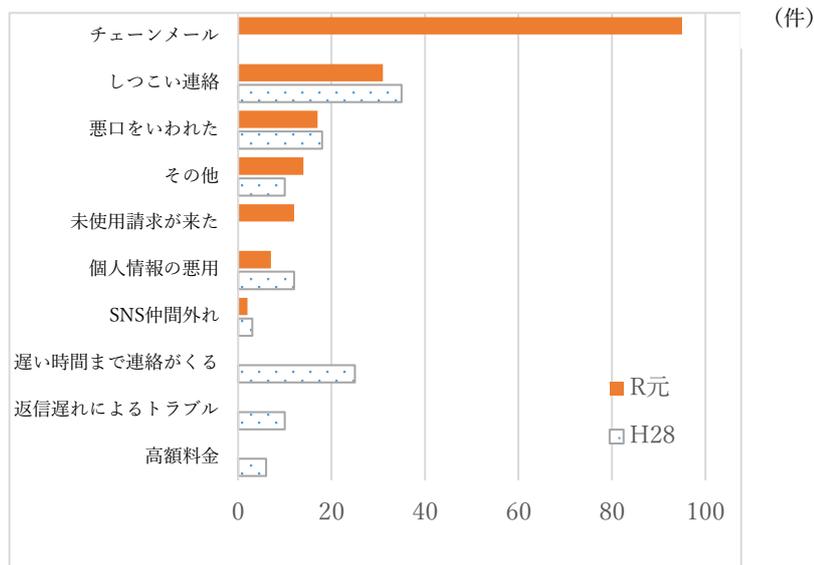


図 7-2 生徒のトラブル内容と件数の比較

(10) インターネットの危険性についての情報入手の方法 (複数回答)

(回答数：児童 1,227件 生徒 1,292件)

児童では、「家族から教えられる」が3割、次いで「学校の授業等」も同程度、生徒では「学校の授業等」が6割「テレビや本など」、「家族から教えられる」がそれぞれ2割となっている。

生徒では、「学校の授業等」のほか「テレビや本など」からの情報も得ながら、自らも学習していることがわかる。「携帯販売店からの説明」との回答は、少数となっており、より詳しく学ぶことができるのは、家庭や学校の授業等での指導が効果的。

「説明や学んだことがない」では、児童1割、生徒は少数となっている。児童がスマホ等を持ち始める時期も早まっていることから、利用の目的に合わせた説明や注意喚起もその時に実施していく必要がある。

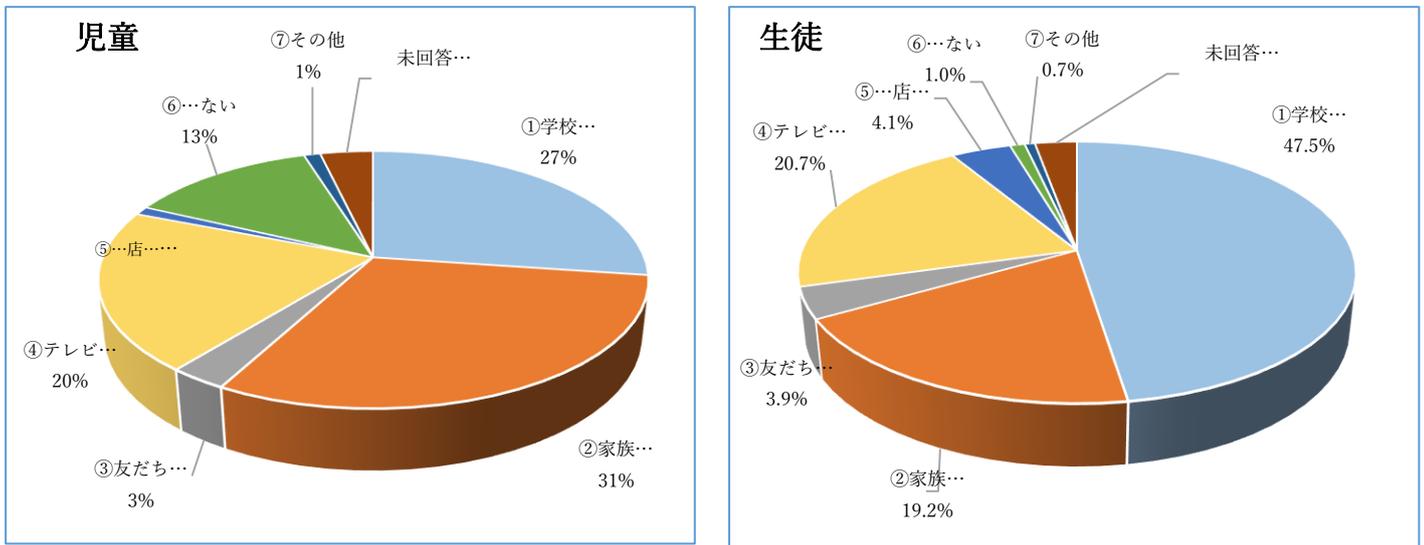


図8 インターネットの危険性についての情報取得方法 (児童・生徒)

- ①学校の授業や集会活動②家族③友だち④テレビや本、パンフレット⑤スマホを買った店⑥説明を受けた学んだことはない
⑦その他

(11) スマホ以外でのネット利用機器とその利用時間

(回答数：児童 1,114 件 生徒 980 件) (複数回答)

児童・生徒ともに、ゲーム機、自宅のパソコンやタブレットの利用が全体回答の7割となっている。「その他」では、TV、iPad、家族等のスマホなどの回答がある。

利用時間は、ゲーム機では「2時間未満」が多く、「4時間を超える」利用も全体の1割となっており、生徒の利用時間が長くなっている。

自宅のパソコンやタブレットの利用では、「2時間未満」が6割、「4時間超」は全体の1割を超えている。音楽機器の利用では、「1時間未満」、「2時間未満」が4割と多く、5時間を超える利用も2%いる。

「利用していない」、「未回答」では、全体の2割。回答の8割が、スマホ以外でネットを利用している。

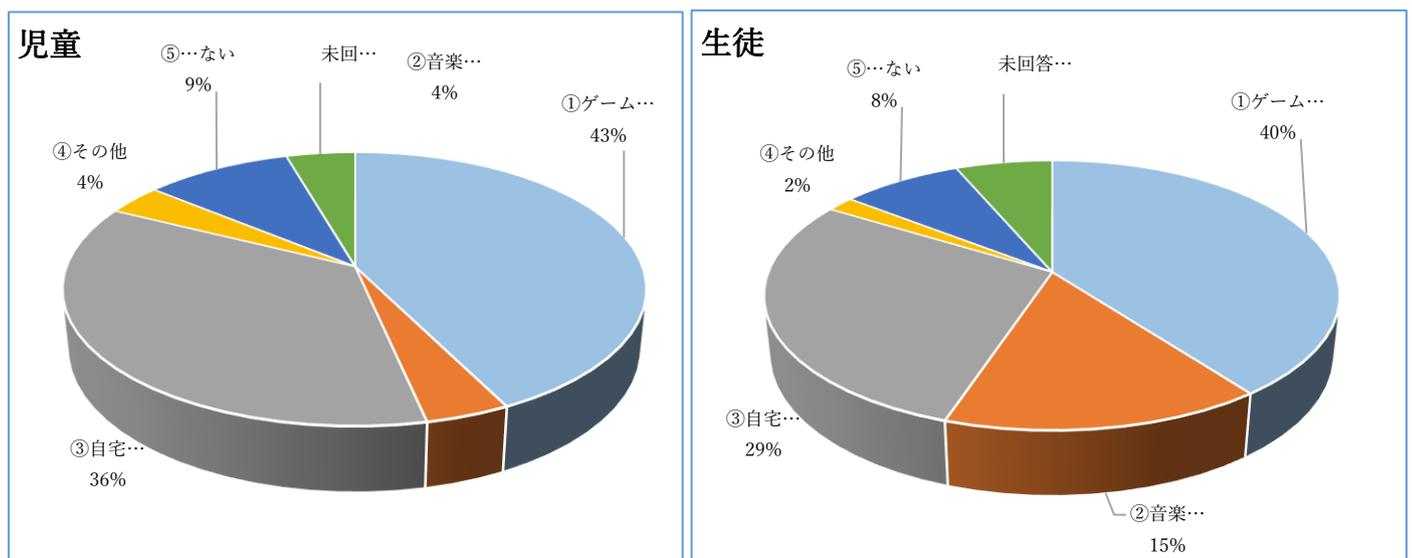


図9 スマホ以外でのネット利用機器 (児童・生徒)

- ①ゲーム機 (スイッチ、PSPなど) ②音楽機器 (ウォークマンなど) ③自宅のパソコンやタブレット④その他⑤利用したことがない

調査の結果及び考察（児童生徒の保護者）

（調査全回答数：児童 922 件、生徒 722 件）

（1）スマートフォン（携帯電話を含む、以下スマホ等とする）の所持率

（設問回答数：児童 799 件の内、所持 226 件、生徒 531 件の内、295 件）

所持率は児童生徒を参照。

（2）スマホ等を持たせた理由（記述）

（回答数：児童 213 件、生徒 279 件）

児童の保護者では、①「連絡用」②「居場所確認」③「趣味、ゲーム」④「YouTube 等の視聴」⑤「調べものや学習サイトでの通信学習等」のため、生徒の保護者では、①「連絡用」②「周りの環境」、③「中学校の入学」④「必要と感じて」⑤「動画などの視聴」のためとなっている。

（3）スマホ等の使用で心配なこと

（回答数：児童 163 件、生徒 198 件）

心配な事としては、①「ゲーム、SNSなどを長時間利用」②「寝不足や視力低下、依存症など体への影響」③「勉強時間の減少」④「有害サイト、友人とのトラブルやいじめ」⑤「知らない人との交流」⑥「ポケット代や紛失」⑦「キッズ携帯からスマホの機種変更後のネットトラブル」⑧「ルールを破る」⑨「フィルタリング設定を外す」などがあり、「長時間の利用」が心配との回答が多く、長時間利用による体への影響や学力・体力の低下、依存症などの危険性について情報提供するとともに、家庭でも生活リズムが崩れないような利用の仕方について、子どもと話しあってもらうことも必要と考えます。また、「心配事がない」と回答した児童の保護者の理由では、「キッズ携帯を使用しているから」や「子どもがルールを守っているから」となっている。

（4）スマホ等のフィルタリング設定の比較（前年比）

（回答数：児童 226 件、生徒 295 件）

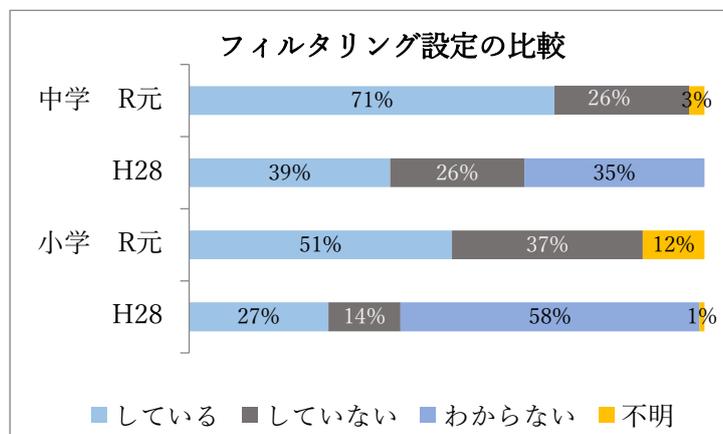


図 10 スマホ等のフィルタリング設定比較（前年比） *18 歳未満は、新規購入時にフィルタリング設定が義務化。

フィルタリング設定では、スマホ等の新規購入時に、フィルタリング設定（18 歳未満は義務化）をされているため、前回よりは設定率が上がっているが、約 3 割が設定をしていない。

また、「設置していない」理由としては、「フィルタリング設定がわからない」、「面倒」、「親と共用している」や「調べもの等に制限がある」などとなっている。

(5) ふだんのスマホ等の使用内容

(複数回答：回答数：児童 623 件、生徒 1,248 件)

児童の保護者の順位は、①「電話」②「音楽や動画」③「ゲーム」④「メール」⑤「SNSサイト」⑥「知りたい情報の収集」の順となっているが、児童の回答では、③と④、⑤と⑥が逆転するが、数値としては、ほぼ同じとなっている。生徒の保護者の順位は、①「音楽や動画の視聴」②「SNSサイト」③「ゲーム」④「知りたい情報の収集」、「勉強等」の順となっており、生徒の回答と一致している。

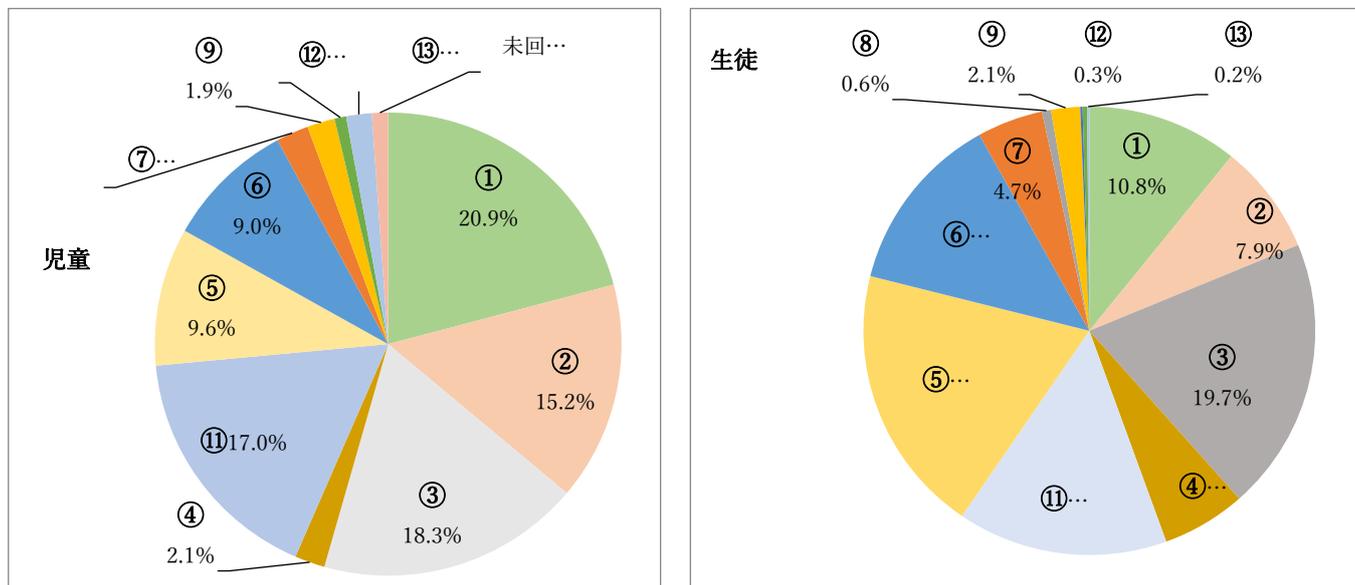


図 11 スマホ等の利用状況（児童、生徒）

①電話②メール③音楽・動画の視聴④小説・マンガ・雑誌等の読書⑤SNSサイト⑥知りたい情報⑦勉強のサイト⑧掲示板の閲覧等⑨自分の写真、行動等の書き込み⑩ネットでの売買⑪ゲーム⑫何をしているか不明⑬その他

(6) 平日と休みの日のスマホ等の使用時間

(回答数：児童 226 件、生徒 294 件)

休みの日になると児童の3割、生徒の5割が3時間以上の使用となっており、5時間以上の長時間使用も1割程度ある。

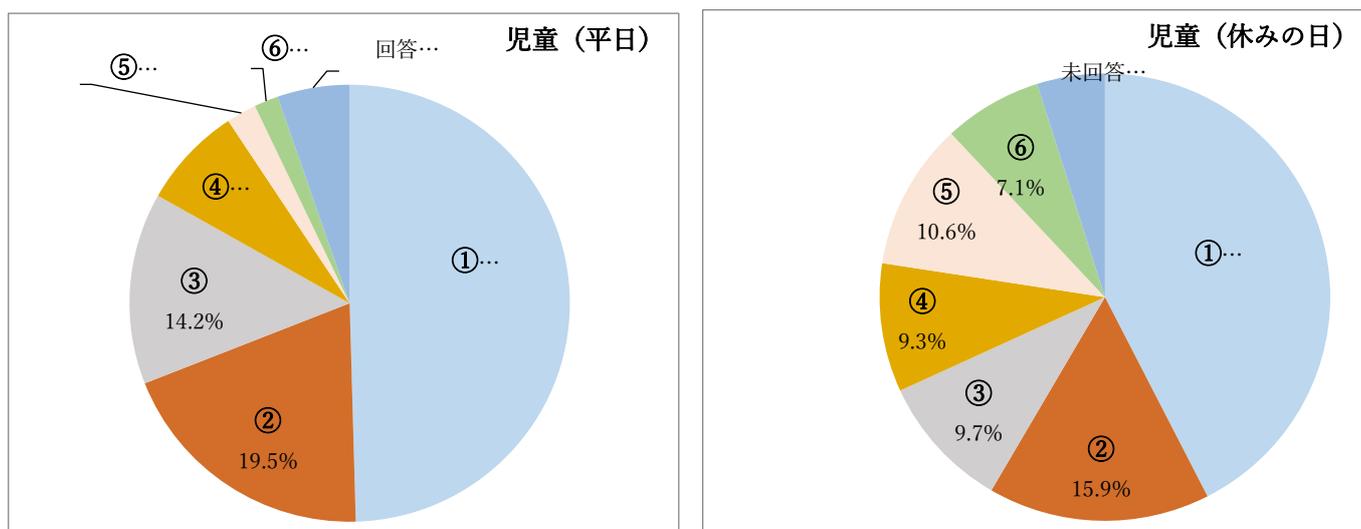


図 12-1 平日と休みの日のスマホ等の使用時間（児童）

①1時間未満②1～2時間未満③2～3時間未満④3～4時間未満⑤4～5時間未満⑥5時間以上

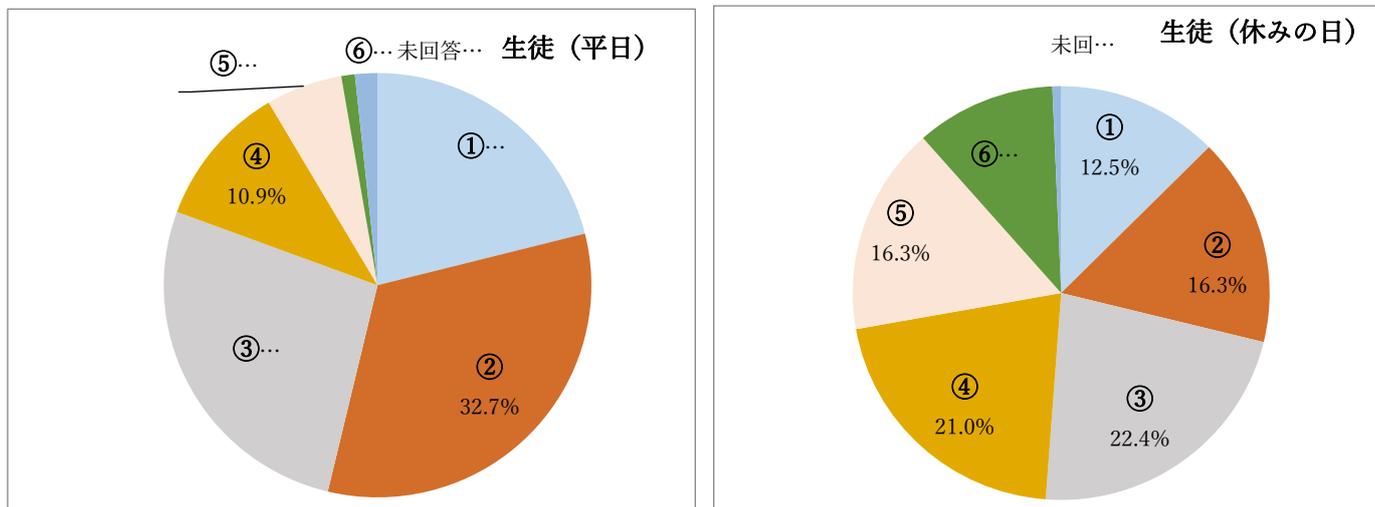


図 12-2 平日と休みの日のスマホ等の使用時間（生徒）

① 時間未満② 1～2時間未満③ 2～3時間未満④ 3～4時間未満⑤ 4～5時間未満⑥ 5時間以上

（8）家庭内ルールの設定の有無と内容

（回答数 児童 158/226 件、生徒 232/295 件）

全体の約 7 割が家庭でのルールを設定していると回答している。内容としては、「利用時間」、「利用マナー」、「利用する場所（家族のいる部屋など）」、「連絡先の制限（家族限定など）」が多いほか、「サイト使用の禁止」、「勉強等（やるべき事）を最優先する」、「学力が落ちたら使用不可」などがある。

（9）ルール設定後の確認方法

（回答数 児童 131/158 件、生徒 197/232 件）

ルールを設定している保護者 390 件の内、8 割となる 328 件がルールを守っているかを確認している。確認方法としては、「使用時に目視（居間などの家族のいる部屋で使用）」や「請求書や通信履歴を調べる」が多く、「本人からの聞き取りを行う」、「スマホ等の保管場所の確認」、「通信履歴が直接保護者のスマホ等に情報が入る設定をしている」などがある。中には、スマホ等に使用時間の制限をかけて自動的に切れる設定にしている保護者もいる。

（10）スマホ等でのトラブルの内容

（複数回答：トラブル有 児童 22/232 件、生徒 82/314 件）

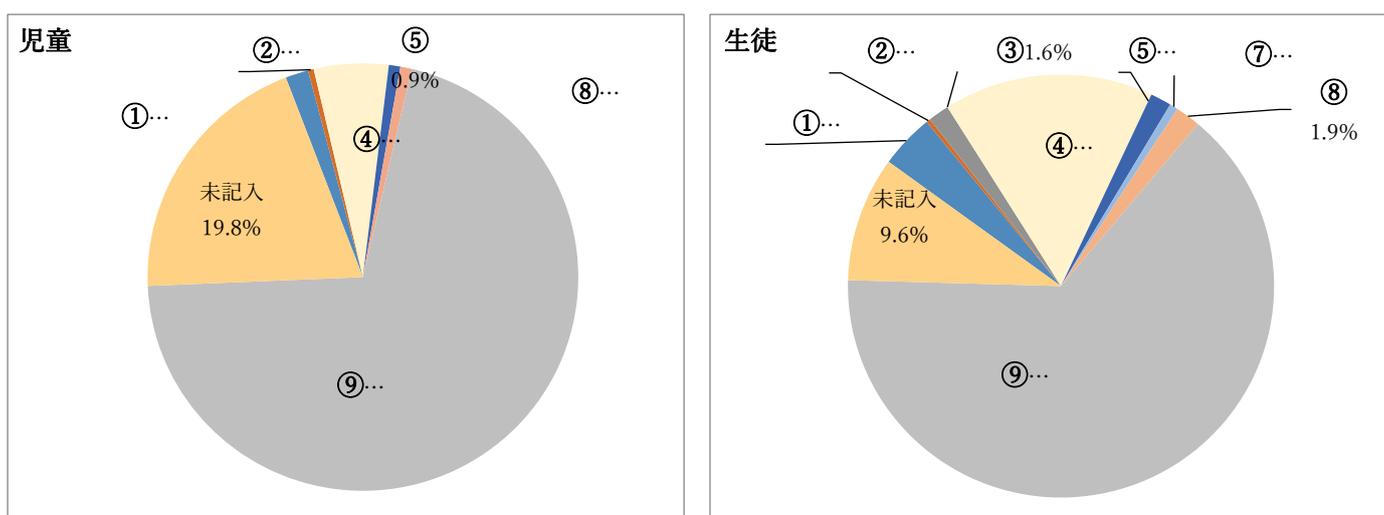


図 13 スマホ等を使用して巻き込まれたトラブルの有無（児童、生徒）

①悪口や嫌な事を書かれた②ネットいじめを受けた③個人情報や写真を悪用された④チェーンメール⑤しつこいメール⑥画面誘導による高額な請求⑦不当請求⑧その他⑨トラブル無し

(11) スマホ等を持たせていない保護者の「持たせない理由」

(複数回答数 児童 1,691 件、生徒 767 件)

「必要がない」との回答が、児童の保護者で3割あり、「メールやサイトでのいじめやトラブルの危険性」、「犯罪に巻き込まれる可能性がある」が上位となっている。生徒の保護者では、「必要がない」との回答が2割あるほか「トラブルの危険性」、「勉強の妨げ」、「生活リズムが崩れる」などとなっている。「経済的な負担」やスマホ等を家庭内で個々に利用することで「家族との会話が少なくなる」と危惧している回答は、1割程度となっている。

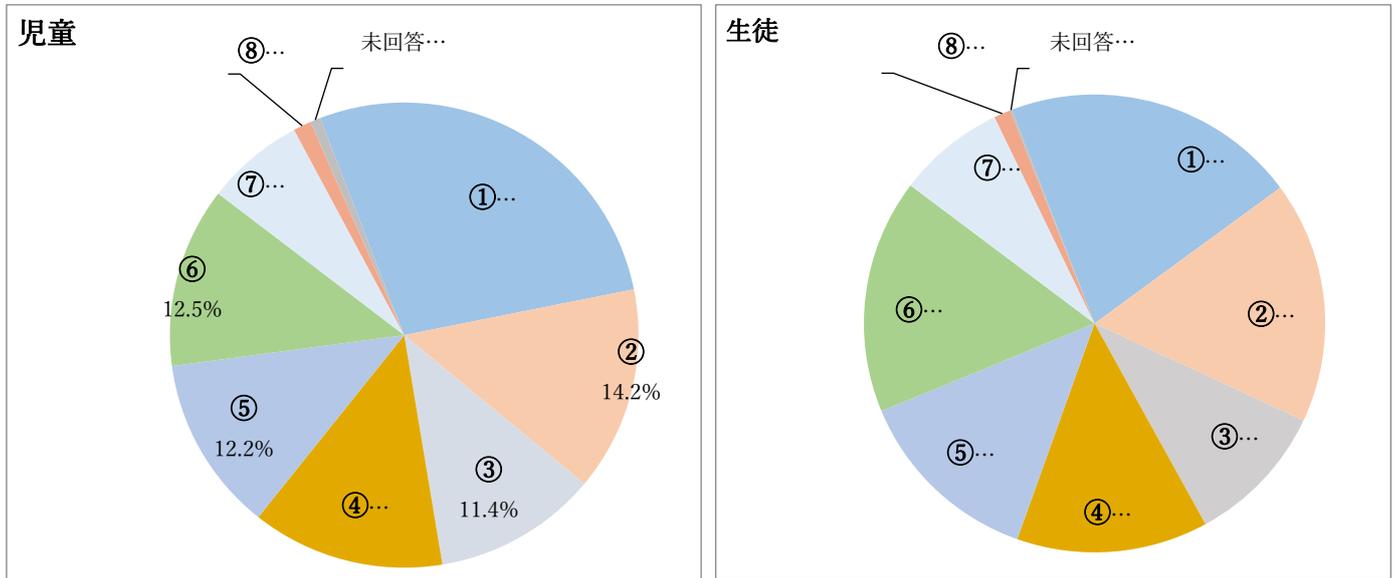


図 14 スマホ等を持たせていない保護者の持たせない理由（児童、生徒）

①持たせる必要がない②メールやサイトでのいじめやトラブルに巻き込まれる危険性③経済的な負担④ネット上の見知らぬ人との交流し、犯罪に巻き込まれる危険性がある⑤生活のリズムが崩れる⑥勉強の妨げ⑦家族との会話が少なくなる⑧子どもがスマートフォンに興味がない

(12) スマホ等を持たせていない保護者の「持たせようと考えている時期」

児童の保護者では、「中学校卒業又は、高校の入学の時期」が多く、次いで「中学校在学中」、生徒の保護者では、「中学校卒業又は、高校の入学の時期」となっており、スマホ等の利用による危険性の認識や利用マナーなど自己判断できる時期が適当と考えている。

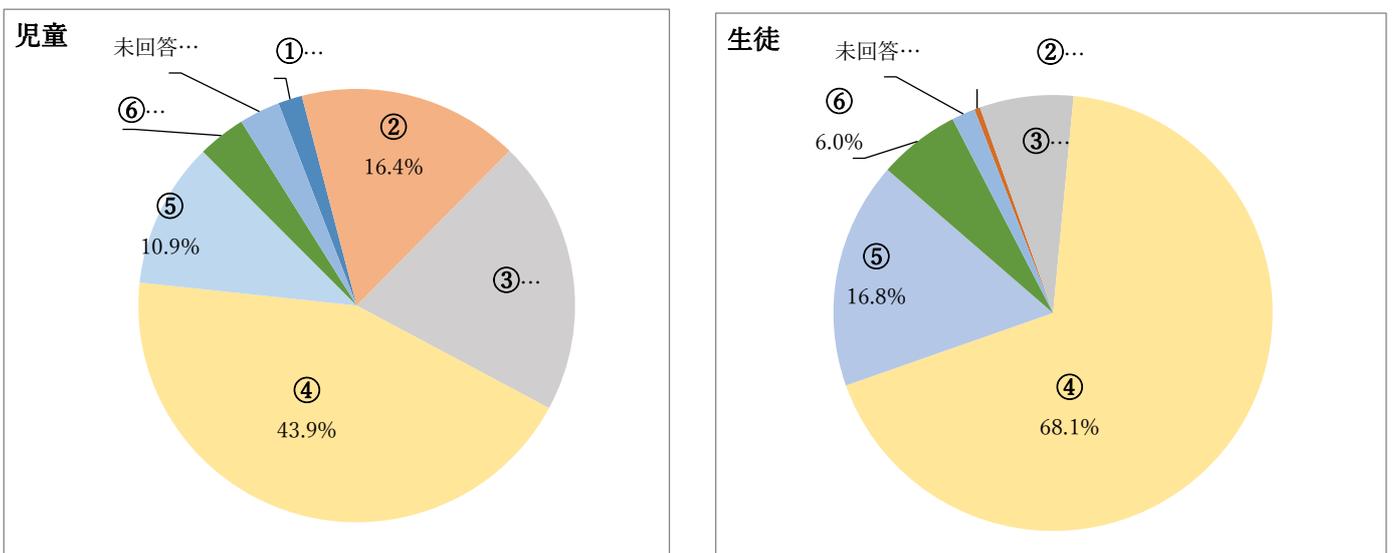


図 15 スマホを持たせる時期（児童、生徒）

①小学3～6年生②中学入学時③中学校在学中④中学卒業又は高校入学時⑤高校在学中⑥特に予定なし

(13) スマホやインターネットの危険性（有害サイトやネットいじめの問題など）についての情報入手の方法

（回答数：児童 715 件、生徒 253 件）

児童の保護者では、「テレビや本、パンフレットなどで知った」、「学校だよりや学校からの配布資料で知った」が全体の3割を超え、生徒の保護者では「学校の保護者会やPTAの会合での説明」が3割となっている。テレビや本などからの情報も入手しやすいが、学校からの配布物、保護者会等での説明が情報を一斉に発信することが可能なことから、有効な入手方法と考える。

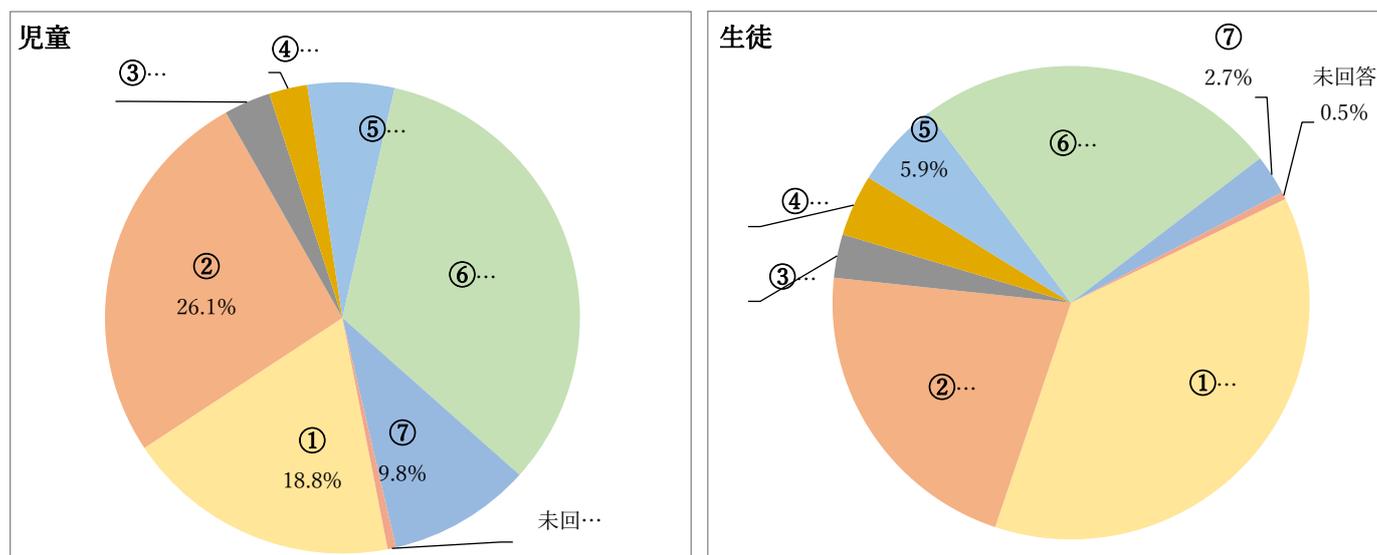


図 16 スマホやインターネットの危険性についての説明等の有無（児童、生徒）

①学校の保護者会やPTAの会合②学校だよりや学校からの配布資料③講座等の参加④スマホ購入時の販売店⑤友人⑥テレビや本、パンフレット⑦特にない

(14) スマホ等の使用による生活習慣の乱れや学力・体力の低下、ネットによるトラブルなどが社会問題化する中、家庭内でできる有効な安全対策（トラブル回避等）について

（回答数／総回答数：児童 467／920 件、生徒 291／587 件）

保護者の半数から回答があり、スマホ等の利用時の安全対策には、高い関心を持っていることがわかる。意見としては、「家庭内での利用ルールづくり」や「フィルタリングを設定する」が多いほか、「インターネットの危険性を教える」、「家庭内での管理をしっかりする」、「いつでも相談できる環境をつくる」や「親子のコミュニケーションを大切にする」などがあつた。

○調査結果のまとめ

今回の調査では、小学生3年生から中学生までとその保護者を対象に実施した結果、スマホ等の利用実態や保護者の皆さんが高い意識を持っていることがわかりました。

前回調査（平成28年）と比較してスマホ等の所持率は、ほぼ同程度ですが、今回の調査では、小学1年生から所持している回答も見られました。また、所持していなくても家族のスマホ等の利用や家庭内のゲーム機などからも簡単にインターネットにつながる環境にあり、ネットトラブルに巻き込まれる可能性も考えられます。現在、スマホ等のフィルタリングの設定率は、18歳未満は義務化されたことにより、前回より設定率が伸びていますが、保護者等からの「おさがり」のスマホ等を使用する場合やキッズ携帯からスマホに機種変更する場合には、フィルタリング設定をするなど、トラブルに巻き込まれないための対策が必要と考えます。

今回の調査で、保護者からの心配な事として最も多かったものでは、「ゲーム、SNSなどの長時間利用」となっており、視力低下や睡眠不足、依存症など体への影響や勉強時間、運動する機会の減少に伴う学力や体力の低下を危惧されていることから、子どもたちにスマホ等の長時間利用による体への影響や学力等での弊害について理解してもらえるような取り組みも必要と考えます。

今後も進展していくネット環境からますますスマホ等の利用が多様化され、SNSなどによるトラブルや犯罪等に巻き込まれる可能性もあります。家庭内でも、子どもとのコミュニケーションを図りながら、トラブルに万が一、巻き込まれた場合には、すぐ相談できる環境づくりや保護者自身がスマホ利用の経験を生かして、スマホの危険性や利用のマナーほか、子どもの成長過程に合わせた利用ルールを作っただけ、保護者の管理の下、ネットトラブルから子どもを守り、これからのネット社会に向き合っただけを願っています。

教育委員会としては、調査の結果を基に、学校の指導はもとより今後も家庭教育支援として情報提供などに取り組んでいきます。